

平成26年度月星会定時総会

平成26年6月7日(土)

於：ホテルグリーンタワー幕張

## INDEX

平成26年定時総会	1
新会長あいさつ	2
臼井先生連載	2
会員企業訪問	3
例会委員会/スケジュール	4
会員異動/編集後記	4

## 産方会長から高柳新会長へ



入梅後の6月7日(土)平成26年度月星会定時総会がホテルグリーンタワー幕張3Fチェルシーに於いて、午後6時に阿佐一郎研修委員長の司会により開会されました。産方会長の挨拶の後、産方会長を議長に土屋文武氏を議事録署名人に選出し早速議事に入りました。第1号議案から第2号議案の平成25年度活動報告、会計報告は木下幹事長から報告がされました。26年度は会報の発行を1回減らし5回とし、また年2回開催した経営研修会の講師を臼井先生、産方会長よりご紹介頂いた結果、講師料が少額となった等の要因で繰越額が例年より大きくなりました。それに関する質問が2件出され木下幹事長より答弁がされ採決の結果、満場一致の拍手で議案は承認されました。第3号議案から第5号議案の平成26年活動方針、活動計画、予算案、役員・委員会構成案は高柳副会長よりそれぞれ説明がされ、採決の結果承認されました。新年度は相談役にも委員長を要請するといった新機軸も打ち出されました。



### 臼井先生の講演は“カッコいい日本”

終了後、第2部特別講演会が臼井先生による「素晴らしき哉日本！クールジャパンが日本を救う」のテーマで行なわれました。内容は“クール=カッコいい”いま日本に必要なもの①日本人としての誇り②他者への思いやり③活力(元気さ)の3つをあげ外国人から見たニッポン、世界で高まる日本の評価等を資料を基に熱く語りました。恒例の臼井先



生を囲んで記念写真を撮影後、20Fスカイバンケットルームに会場を移し川名事務局の司会による懇親会が開会されました。



会長の挨拶の後、千葉犯罪被害者支援センター事務局長の加藤恵美子氏と千葉県肢体不自由児協会事務局長横川文子氏にふくろう募金より10万円づつ寄付金の贈呈が行なわれ、新役員の任命式に移りました。高柳新会長には臼井先生より任命証が手渡され、尾形副会長以下役員・委員長には高柳会長から手渡され、新会長挨拶では「人と人とのふれ愛を大切に」をスローガンに①会員のための委員会活動の充実②会員増強、退会防止の活動を行う③「明るく楽しい」例会、委員会活動に努める、を活動方針に今年1年活動する旨、力強く挨拶

されました。シンセサイザーの演奏の中、日頃中々お会い出来ない会員さんと語らう姿も多く見られ、午後9時過ぎ

に「日の出の男」を合唱し加藤相談役による中締めで和やかな懇親会はお開きとなりました。（事務局 川名利夫）

新会長あいさつ

平成26年度月星会会長 高柳啓一

## 今年度のテーマは、 「人と人とのふれ愛を大切に」

今年度、月星会の平成26年度会長を務めることになりました。会長として、私が掲げたテーマは、「人と人とのふれ愛を大切に」です。

月星会は異業種の方々が集まり、勉強し、交流を持つ会です。交流とは人間関係を築くことであり、交流を重ねれば自然に「絆」ができます。交流を重ねれば重ねるほど、絆は強くなります。

しかし、人間関係とはとても繊細なものだと思います。「絆」という言葉には、もともとその繊細さが表現されています。漢字のつくりを見ればわかりますね。「糸」（つながり）と「半」（半分）で構成されています。糸の半分ですから、無理に引っ張れば簡単に切れてしまうほど弱いのです。

この弱い「絆」を強くするには、何かが必要なのです。私

は、「愛」だと思います。「愛」というと、人それぞれに思いが足りすぎるので、ニュートラルな言葉に置き換えるならば「愛情」です。

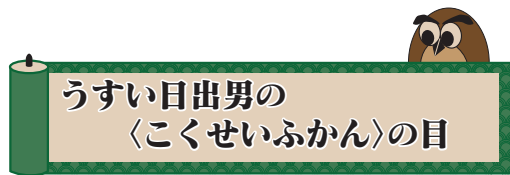
私は、月星会会員相互の愛情があれば、それぞれが明るく、楽しい月星会の活動が行われると信じています。しかし、「楽しくなければ月星でない。また、楽しいばかりが月星でない」というのも真実です。

月星会は今日まで、臼井先生の愛情の下で成長してきました。気がつけば私たちも、臼井先生に対して、また一人ひとりの会員に対して、愛情が生まれ、自然に育んできたのです。

このことをあらためて認識し、今まで以上に内外共に認める魅力のある会にしたいと考え、今年度はこのテーマで活動することにしました。会長一人では何もできません。会員一人ひとりの力をお借りし、1年間活動してまいりますのでご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



連載



## なぜ今“集団的自衛権” 見直しののか

### 日米安保強化こそ安全の基本

かねてから安倍総理が進めてきた我が国の安全保障政策の見直しについて、与党内の調整が成って閣議決定がなされた。十分とは言えないが、評価したいと思う。

近年、中国の軍拡は激しいものがあり、その力を背景にして尖閣列島周辺のみならず、南海地域における活動の拡大は周辺諸国の不安を煽っている。こうした状況にあって、従来の我が国の防衛はその都度、特別立法で対応する手法を採ってきたが、その限界が切実な課題となっていた。

我が国では従来、“集団的自衛権は有しているが、憲法上の制約で行使できない”とする見解を取ってきたが、尖閣列島周辺で見られるように、度重なるしかも数多い中国艦艇の侵犯や航空機の異常接近など、何時不測の事態が起きるかもしれない状況に至って、我が国の安全をより確実に確保するためには、米国との安全保障をより緊密にしていくことが緊急の課題であることは自明の理である。

## 解釈改憲は 日本民族の知恵！

ここにきて、「集団的自衛権」がよく理解できないとか、歯止めが不明確だとか憲法改正によるべきだとか、疑問を呈する声が多く挙がっている。

中でも憲法とのかかわりについては、はっきりさせておく必要がある。

いわゆる“憲法の解釈改憲の是非”の問題である。

私たち日本民族は極めて事態に柔軟に対応する能力を有した民族で、過去に多くの解釈改憲等を行ってきた。その最大のものが、日本国憲法では非武装を謳っているのに、現実には昭和25年の警察予備隊の創設以来、今日に至るまで多くの解釈変更を行い、いわゆる“自衛力”を強化し、世界でも屈指の戦闘能力を有する国を築きあげた。

憲法改正には多くの課題があり、一朝一夕には実現できない以上、これからも憲法違反にならないぎりぎりの範囲で、我が国の平和と安全をまもるための解釈改憲を行い自国の平和と安全を確保していくべきだと確信する。



元衆議院議員 臼井日出男



## 第18回 社会保険労務士法人 ハーモニー

### 9年前の宣言通りに法人化を 達成して飛躍中！

数々の辛苦を乗り越え、今、花開く

強い女性経営者である。強いだけではなく、優しさが二重三重に備わっている。そう装っているわけではなく、“ありのままの姿”として伝わってくる。

ハーモニーの代表社員で特定社会保険労務士の徳永康子さんに久しぶりに会って歓談したあと、そんな思いを抱きながら、爽やかな気分で帰路の電車に揺られていた。

「禍福はあざなえる縄の如し」と言うが、今の徳永さんは、ようやく一番福の順番が来ている。そんな印象さえ受けるのである。

### パワーの源泉

こういう書き出しをすると、「禍」が何かを書かなければならないのだが、あまり詳しく書く気にはなれない。しかし、徳永さん自身が講演等でありのままに話しているので、禍の一端を箇条書きであげておこう。

- ・46年前、高校3年のときに愛する12歳の弟が交通事故で死亡。ひき逃げで犯人は見つからず。
- ・短大卒業後に就職するも、男女差別にショックを受け、早々に結婚退職。21歳（結婚自体は「福」）。
- ・23歳で長男出産も、卵巣嚢腫で両方の卵巣を摘出。
- ・転勤の多い夫との生活（全国10回転勤）で、落ち着いた暮らしを築けず。
- ・夫の実家が倒産。多額の負債を夫と共に返済するために5年間、生保レディで稼ぐ（このあたりから持ち前の馬力を発揮）。
- ・平成7年、夫が突然死。過労死の申請をするも、8年後に却下（平成6年に社労士の資格取得。夫の死は最たる「禍」であったが、自身の辛い体験が社労士として大きな勉強になり、やがては「福」と転じる）。
- ・平成21年、税理士として事務所を共にしていた34歳の長男が脑梗塞で倒れる（その後、本人の努力で仕事に復帰）。

誤解なきよう念を押しておくが、徳永さんは自らの生涯に押し寄せたこれらの禍を売り物にしているわけではない。むしろ、ここで羅列することをよくは思わないであろう。

しかし、これらの禍の一つひとつが、ハーモニーを創り上げた徳永さんのパワーの源泉になっていると思うゆえ、書かざるを得ないのである。

### 3冊の著書と自己宣言

徳永さんに初めて会ったのは10数年前だった。親しい警備会社の社長に誘われた酒席で紹介された。社労士として就業規則等の相談を受けたあとだったらしい。まだ事務所を構え



てからそれほど年数も経っていない頃で、徳永さんにとっては営業の一環だったのであろう。

営業といえば、このときも含めて非常にアグレッシブな印象がある。本人も某講演会で「生保レディで成功したくらいだから、営業は私に向いている」と語っている。

初対面後しばらくしてから、徳永事務所から毎月、「事務所ニュース」（現在は「ハーモニー NEWS」）をメールでいただくようになった。これが割合秀逸で、役立ち感があるだけではなく、人間味を感じるのである。

徳永さんにはその後、当時私が役員をしていた出版社から3冊の著書を上梓してもらったのだが、打診したのは「事務所ニュース」の筆致に、「難しいことをやさしく書ける人だ」と確信を持ったからにほかならない。

ちなみに、1冊目のタイトルは『いちばんわかりやすい雇用ルール改革のポイント』（中経出版）である。

担当編集者の細部にわたる要望を素直に受け止め、文字通りわかりやすく書いてくれた真摯な執筆姿勢に編集者共々感激し、2冊目、3冊目の著書につながった。

徳永さんは、著書執筆に要した2年余月は、社労士の仕事を職員に任せ、「そのおかげで、みんな育ってくれた」とも言っている。

実際、現在の徳永さんはそれ以降、必要な情報は漏れなく収集整理しているものの、直接、実務を担当することはほとんどないようだ。つまり、一般企業で言う「オーナー経営者」としての役割に徹しているのである。職員が育ち、充実している証であろう。

現在、社労士の資格を持つ法人社員（一般企業で言う役員）は、代表社員の徳永さんを含めて3名、職員は合わせて15名。この職員数は、本の執筆に集中していた頃の倍を超えている。

事務所のこの急速な発展を支えた要因には、平成17年に本人が大きな模造紙に手書きで記した「アフアメーション」（自分への宣言）もある。もしかしたら、この宣言の効果が最も大きいかもしれない。

宣言は、7つの項目で構成されている。その3番目の項目にこうある。

「徳永事務所は、社労士法人であり、特定社労士2名と有資格者が15名おり、それぞれ得意分野を追求している」

有資格者の数こそ未達成であるが、法人化はみごと昨年の11月に達成した。ざっくりとえば、9年前のアフアメーションは、およそ8割は実現した。

ずっと代表を支え続けてきた事務長の伊藤薫さんに聞くと、「9年前、この宣言を見て、徳永さんだったら必ずやり通すだろうと確信していました」と、迷うことなく答えてくれた。

（取材・文／奥平。次回訪問企業調整中）

# 例会委員会

6月例会 平成26年6月18日(水) 於：鯨割烹みどり

千葉大学工学部デザイン心理学研究室と連携し、今まで主観的でしかなかったデザインの見やすさ、安全性、使いやすさ、印象などを、心理学・工学の視点から客観的に評価・測定する事業を行う。ダイキン工業の新型リモコン開発や千葉銀行の通帳や新店舗のデザイン、国立印刷局の紙幣デザインなどの実績を持つ株式会社BBStoneデザイン心理学研究所代表取締役 日比野 好恵様に卓話の講師をお願い致しました。

当日は24名という会員が集い卓話に耳を傾けていました。

最初にパワーポイントを使って、プロジェクターに投影した2枚の画像を見せられて、それぞれの画像の違いを探するという実験をしましたが、誰も講師が回答を出すまで気が付きませんでした。人



日比野 好恵様



高柳会長と尾形副会長兼例会委員長

の目はとかくただ見ているだけで正確には把握していないものだと感じました。その後、目の錯覚や目から入る情報の見え方の違いなどの説明を受けましたが、これを客観的に数字で安全性、使いやすさなどお年寄りに理解しやすい、使いやすいものにしていく技術に関心した次第です。

また、色や音楽にも数値評価を取り入れ、人の過ごしやすい空間を作り出す技術にも応用できるなど、これからの活躍が楽しみになる内容でした。

(例会委員長 尾形文貴)



6月のお誕生日

## 8・9・10月のスケジュール

8/2(土)	<b>納涼会「千葉市民花火大会」</b> 19:30~20:30 会場：幕張海浜公園 参加費 会員2,000円 ビジター 3,000円
8/6(水)	<b>役員会</b> 18:30開会 プラザ菜の花
8/28(木)	<b>定例夕食会</b> 18:30開会 参加費 3,000円 会場：鯨割烹みどり
9/6(土)~ 9/7(日)	<b>研修親睦旅行</b> <b>「久能山東照宮館山寺温泉へ」</b> 集合7:20 出発7:30 JR千葉駅NTT前 参加費：会員 28,000円 ビジター 32,000円
9/10(水)	<b>役員会</b> 18:30開会 プラザ菜の花
9/24(木)	<b>定例夕食会</b> 18:30開会 参加費 3,000円 会場：鯨割烹みどり
10/1(水)	<b>役員会</b> 18:30開会 プラザ菜の花
10/23(木)	<b>定例夕食会</b> 18:30開会 参加費 3,000円 会場：鯨割烹みどり

## 会員異動 役職変更

山本 康昭氏 (株)センエー  
代表取締役社長→代表取締役会長

## 退会

武田 自治夫氏 (有)太陽社 私事  
今関 左千夫氏 防災技術センター(株) 私事

## 編集後記

◆今年度から広報委員長を仰せつかりました。若輩の私ですが、前委員長でアドバイザーの星野さんや委員長経験者の栗原さん、ホームページの充実にも力を尽くしてくれそうな阿佐一郎さん、プロフェッショナルの奥平さんなど、副委員長の皆さま方が強力なのでなんと1年間がんばれそうです。各役員の方々をはじめ会員の皆様方には、原稿のお願いなど数々のご協力を賜ることになると思いますが、何卒よろしくお願い申し上げます。(内藤)

◆会報のお手伝いをさせていただいてから数年経ちますが、ずっとタッグを組んできた内藤さんが委員長に就任されました。委員長ですから、実務のほうまで手が回らないのではないかと心配な面もありますが、見るからにエネルギーが余っているような感じもするので、たぶん大丈夫なのでしょう。会報づくりで私が楽しみにしているのが「会員企業訪問」ですが、今回のハーモニーさんでまだ18回です。“つづき”は、まだまだあります。どうぞ皆様のご協力をお願いいたします。(奥平)